

令和6年度第2回和光市市民参加推進会議 会議要旨

開催日：令和6年8月27日（火）15時00分～16時30分

開催場所：和光市役所庁議室（市役所3階）

出席者：杉崎和久会長、富澤隆司副会長、坂井美咲委員、都築松子委員、鈴木英之委員、
遠山かおり委員（6名）

事務局：斉藤課長補佐、橋本統括主査、田中主任、安井主任

次第：開会

Ⅰ 議事

(1) 和光市の若者の市民参加の推進について

～より多くの若者が市民参加をするために必要だと思うこと～

- ・ わこらぼ（5月25日開催）で実施した子どもの意見表明に関するワークショップの実施概要及び結果報告
- ・ わびあ夏祭り（7月27日開催）で実施した国内・国外交流事業に関するアンケートの実施概要及び結果報告
- ・ 新規採用職員を対象とした市民参加推進研修（7月31日実施）の実施概要及び結果報告

2 その他

閉会

傍聴者：なし

開会

議事

(1) 和光市の若者の市民参加の推進について

杉崎会長

それでは会議を始めます。この会議の目的は、各課で行われている市民参加事業の取組みが妥当かどうかを実施前後で評価することと、和光市の市民参加の課題に対してテーマを絞って議論することです。今期は「若者の市民参加の推進」をテーマとして議論していこうと思います。

若者と言うと大きく分けて2つ考えられ、1つは現役世代、20代から30代の成人している方たちを指すことが多いですが、現役の若い世代は市が呼びかけてもなかなか参加が難しいため、どうアプローチするかという議論で、もう1つは子どもたちとのコミュニケーションという議論です。かつて深刻な課題があった時期に比べると、現役世代の方は、実は様々な場面でSNSを使って意見の提出や、ワークショップやイベントに参加してくれていたりすることがあり、むしろ若い人の方が身近なことに関心があることもよく言われています。子どもの参加については街に愛着を持ってもらうためにどうするかという議論をしたことがあったかと思いますが、皆さんご存知のように和光市は人口の流動性が高いです。

社会状況もだいぶ変わり、こども家庭庁ができたということもありますが、令和4年にできたこども基本法という法律では、社会の一構成員としても、子どもたちが過ごしやすい社会を作ることを目指しています。子どもたちの意見を聞くことは勿論、子どもたちが社会にどう関わって

いくつかということも大事にしていこうというのが、和光市に限らず、社会の大きな流れになっています。

今日は結論を出す場ではありませんので、社会の変化や、意外と身近ではこんなことが起きているなど、色々な議論ができればと思います。事務局から事業報告をお願いします。

事務局

今年度若者を対象に実施した市民参加事業について、ご報告いたします。現在、企画人権課で把握している事業は3件ございます。

1件目は、資料1の子ども家庭支援課が実施した子どもの意見表明に関するワークショップです。こども計画を策定する際にこども大綱に沿った計画内容としたいため、計画の主体となる子どもの参加が多く見込まれる「わこらぼまつり」で、ワークショップを実施しました。子ども・育児中の保護者に「何をしているときが楽しいか」「楽しいと思う場所はあるか」という質問で、アンケート調査を実施しました。

ふせんに記載して虹の絵をつくる、選んだ回答の箇所にシールを貼るというような形式でワークショップを実施しました。保育士協力のもと、掲示物のイラストや質問事項を考慮し、子どもたちに喜んでもらえる啓発品を用意し、集客のためにシャボン玉を会場で使用しました。その結果、300人以上の回答が得られました。事業終了後には、市役所1階でのパネル展示、ホームページで結果を報告しました。

担当課からは「子どもたちと直接やりとりができたので素の意見を聞くことができた」「お祭りの中での実施だったこともあり、様々な子どもたちと関わることができよかった」といったお話がありました。

その他、先ほどのワークショップとは別に、子ども計画に関わる市民参加事業として、8月19日から23日までの5日間、市内5か所の図書館や児童館にて『「こどもまんなか」のまちってどんなまち?』をテーマに、和光市のこれからについて、市内小学校4年生から中学校3年生の児童生徒が話し合うワークショップを実施しました。この事業では、参加特典として、参加証明書を発行し、和光ブランドのプレゼントを用意しました。こちらの結果は集計中です。

2件目は、企画人権課で行った国際・国内交流に関するアンケートです。現在、アメリカ合衆国ロングビュー市と姉妹都市協定を結んでいますが、時差が大きく、オンラインであっても簡単に交流を行えないといった理由から、別の国と新たに交流事業が行えないか検討しています。そこで、外国の方とどのような交流がしたいか、どのような国と交流したいかということ、加えて、友好都市協定を結んでいる長野県佐久市、新潟県十日町市、栃木県那須烏山市での交流事業もより一層積極的に行っていききたいことから、どんな交流事業を希望するか、若者を対象としアンケートを実施しました。

7月27日のわびあの夏祭りでも、年代別に色を変えたシールを希望する交流に貼ってもらい、意見を聴取しました。また、アンケート参加者には啓発品を渡しました。

強い雷雨により開始早々に夏祭りが中止となってしまったため、実施できたのは短時間でしたが、54の方が参加してくれました。わびあの夏祭りでは、参加者の年代別人数は数えられていませんが、各質問に対する回答者の年代別件数は資料2のページ下部のとおりです。

このアンケートは、わびあでの実施以外にも3回行いました。1つは8月17日に市内のスポー

ツ団体所属の児童をメインとした夏季スポーツ大会、2つ目は8月19日から23日までの子どもまんなかのまちワークショップ、3つ目は8月22日に職員の子どもたちによる親の職場見学という事業の中で実施しております。結果については集計中です。

調査を実施してみて、シールを貼る方式で行いましたので、子どもたちの関心を引き付けることができたと思います。皆さん楽しそうに自分の思っていることを、気軽にやりたいことを話してくれたという印象です。一方でシールを貼ることに集中していて、調査を理解してもらうのが難しい部分もありました。

実際対面で説明ができたのはわびあひの夏祭りだけで、それ以外では壁に調査票を貼って自由に答えてもらう形で、対面で説明はなかったため調査方法の改善の余地はあると思っています。このアンケートの目的としては、今後市が行っていく国際交流や国内交流について、子どもたちにも参加してもらいたいというところから、まずニーズを把握したかったため、子どもたちが取り組みやすい今回の方式で実施しました。

3つ目のご報告をさせていただきます。3件目としては、研修の結果を含む若者の市民参加についての調査報告をいたします。

昨年の10月、今年の4月に入庁した新規採用職員を対象とし、7月31日に企画人権課主催で市民参加の基礎研修を行いました。その際に、グループ内でどのような市民参加事業だったら参加したいと思うかをテーマとし、若者の市民参加にある課題と解決法を議論してもらいました。

新規採用職員29名のうち、回答者は26名で、市民参加経験のある職員とない職員の比率は、ちょうど半々でした。市民参加の経験としては、お祭りなどの市のイベント参加者が最も多く、審議会やワークショップの経験者はいませんでした。市民参加に参加しようと思った理由は、行きやすい場所であったと回答した職員が最も多く、その他、たまたま機会を知ったことにより参加した方や、景品があったことが参加のきっかけとなった方もいました。一方、市民参加経験がない理由としては、市民参加の意義や機会の周知不足が原因と思われる回答でした。

同じ手法に対して、近い年齢であっても意見が割れていたため、事業の特色に合わせ、手法をよく検討することが必要であることがわかります。

次に、若者の市民参加にとっての課題と解決法について話し合った結果を資料3の4ページ目にまとめました。質問2の「課題を解決するためにはどのような方法をとることが有効だと考えますか」にある左側の番号は、質問1の「若者の市民参加にとって、どのようなことが課題だと思いますか」にある課題番号に対応するものです。具体的には、課題の1「市民参加があることを知らない」と、課題の7「高校生以上は市外に出てしまうためより関心が低い」ことの解決法としては、「SNSでバズらせ広く周知」することや「YouTubeのショートを活用」することが有効という回答でした。今回の研修では費用面での検討までは行っておらず、実施可能であるかどうかまで議論はできていないため、実証する場合は別途検討する必要があると事務局では考えています。

今回の研修では選択式の質問と回答の自由度はあまり高くなかったため、記述式にすることでもっとユニークな回答も得られたかもしれないと考えています。昨年グーグルフォームを使って実施した市民アンケートでは、回答者のボリュームゾーンが30代～50代で、地域活動や市民参加の経験がある方が多く、他者と関わることに抵抗が少ない方が多いのか、機会があれば参加したいという回答者が多かったことに対し、今回は対象者のほとんど20代で、地域活動やお祭

り参加以外の市民参加の経験も少なかったため、前回のアンケートとは少し異なる結果となりました。この研修に参加したのはほぼ同時期に入庁した職員のみとしていたため、率直な意見を聞くことができた一方で、意識改革の必要性や今後の推進の方向性のより一層の検討が必要だと思われる。

以上の3件が子どもから若者を対象に実施した市民参加事業の報告となります。

本日は市民参加事業の結果からより多くの若者が市民参加をするため必要だと思うことをテーマとし、皆様に議論していただきたくお願いいたします。

杉崎会長

これらは本音だと思いますが、回答した職員が今後市民参加を担っていくことになるので、市民参加に対しての重要性を認識し、積極に関わってもらえるよう、戦略をもって進めていく必要があると思います。これは重たい課題だと思います。

事務局

この回答は市民参加についての知識を得る前に回答したもので、この研修の中でも市民参加の重要性や必要性はお伝えし、今後も研修を積み重ねていきたいと考えています。

杉崎会長

そのやり方に戦略が必要で、若い人たちがどういうプロセスを踏んでいくとポジティブに市民参加をやってみようかなと思えるかということだと思います。あまり積極的ではない人に、やらなければならないと言っても、そのようなネガティブな市民参加のプロセスでは、市民としてはワクワクして参加できないのではないかとということです。

遠山委員

研修を受けた後に答えていたら意見が変わったかもしれません。合意形成でも、最初に率直な意見を聞いた後に説明し、もう一度アンケートを送ることがよくあります。

杉崎会長

市民参加を進めていくためには、やはり職員の市民参加に対する思いや技術を底上げしないと全体としては厳しいと議論されていたところでしたが、思った以上になかなか厳しいということです。

鈴木委員

今回の研修は今年度の新規採用職員ですよね。前年度以前はアンケートはやっていないので、もしかしたら潜在的にはまだ市民参加の重要性や必要性がわからない方はいらっしゃる可能性がありますよね。

事務局

研修は毎年実施していますが、アンケートを取ったのは今回が初めてです。

杉崎会長

この会議も含め、研修のやり方や、次のテーマを含め検討していきましょう。

富澤副会長

アンケートは市民参加についてだけを聞いたのですか。

杉崎会長

市民参加をテーマにした研修をして、その中で行ったアンケートですね。
他に、質問やご感想はありますか。

鈴木委員

資料Ⅰ（子ども家庭支援課ワークショップ）について、対象の子どもの年齢は就学前でしょうか。

事務局

これはお祭りで行ったワークショップのため参加者の具体的な年齢はわかりません。

鈴木委員

わびあの夏祭りはどこで実施されていたのでしょうか。館内ですか。

事務局

初めはわびあの広場で、子どもたちのいるところに職員が出向き、聞き取りをしていました。
途中で雨が降ってきたため場所を移し、市役所の議会棟の方には人がたくさんいたので、中止が決まった後はそこで聞き取りを行いました。

鈴木委員

資料Ⅱについて、友好都市は災害の関係を結んでいる都市だと思いますが、東松山市も結んでいますよね。今回のアンケートから除外している理由はありますか。

事務局

特に理由はありません。この3市はスポーツ交流を行っていて、事務局としてはスポーツ交流だけではなく、幅広い分野での交流を視野に入れた見直しをしたいと考えています。

都築委員

その街がどういう特色があるのか知らないと答えるのが難しいですね。

事務局

対面だとして説明しながらお子さんの意見を聞くことができたが、対面でないと難しいので、各友好都市の特色がわかるようなイラストを用いて少しでもイメージが湧くようにシールを貼る様式を作りました。

都築委員

中学校や高校の生徒会に聞いてもよいと思います。

杉崎会長

やり方はこの場では協議しませんが、こども基本法では、子どもが社会にどう関わっていくかを主としていますので、ステークホルダーが子どもであるものに対することではなく、子どもたちがどのように行政に関われるようにするかを検討することが重要です。この調査については意見をもらうということよりも、アウトリーチすること、和光市はこの3つの街とスポーツ交流しているということを知ってもらう方が大事なので周知・PRの意味では良いと思います。

事務局

佐久市と災害協定を結んでいることを知らなかったというお話もいただいて、そういうことも伝えられたと思っています。選択肢については、それぞれの都市の観光的な特徴から和光市で経験することが比較的難しいものを挙げました。

杉崎会長

今日の議論は現役世代ではなく、子どもの社会参加に関することによろしいでしょうか。こういう機会があって、こういうところに参加してほしいとか、こういう機会を作ったら子どもたちが地域に関われるとか、そういう議論ぐらいまで視野に入れられたらと思います。

鈴木委員

広沢小学校6年生の総合の授業で、去年、和光ブランドを扱っているお店をPRする授業がありました。お店のPRする素材を見つけるために、お店を訪問して自分たちで模造紙に書いて市役所の1階で発表していました。今年もそういったお話をいただいたので引き受けているのですが、地元の商店や、地元の企業を知ってもらいながら、お店の地元との関わり方を知ってもらう機会はすごく大事だと思いますので、和光市の学校自体で取り扱うようになれば、子どもたちの地元への意識や関心になるのではと思います。

杉崎会長

和光でできた色々なものをアピールする方法を皆で考えるプロセスを通じて、自分たちも知ることできるし、社会参加というか、子どもたちなりにできることをやってみようという一つの事例として良いですね。

商工会はそういったもののコーディネートの事務局にもなるのですか。

坂井委員

商工会の中に青年部という組織があるのですが、青年部主催で「わこワーク」という和光市の事業所、例えば弁護士事務所、YouTubeの配信のような画像制作や動画制作を行っている企業など、色々な事業者に協力いただいて、子どもたちに体験してもらうお祭りを昨年開催しました。結構反響が良かったと聞いております。今年もクリスマスに、青年部では子ども向けのワークシ

ョップを企画していて、商工会全体としてもなるべくそういう方向に舵を切っていきたいという案が出ています。

杉崎会長

それは商工会や、お店の方たちがいろいろな場所、場面、プログラムを用意して、子どもたちに参加してもらうということですか。

坂井委員

そうですね。市役所で日時や場所の告知をした上で、市内の事業者を募って、その場でテントを出して実施するワークショップです。

杉崎会長

子どもたちがお客さんで参加するだけではなく、鈴木さんのお話のものはさらに提案しようという話になるわけですね。

鈴木委員

実際作っていただくので、お店を通じて和光市を知ってもらうことができると思います。

坂井委員

商工会で行っていることは、地元の事業者を知ってもらう、事業を体験してもらうことです。例えば、色々なお祭りの際の協賛の欄に会社名や場所が書いてあってもわからないと思います。ワークショップとして出ていただくことで、どのような企業かを知ってもらう機会を作りたいと考えています。

杉崎会長

商工会なので、主たるは市民の方と関係を繋ぐことが目的で、さらに踏み込んでいくと、例えば、子どもたちが地元企業を知って、体験するということですね。

坂井委員

あくまで商工会は和光市内の事業者の支援がメインですので、今回の子どもたちへの企画は直接的ではないですが、地域振興という点で市民の皆さんに和光の素敵な会社をPRする一つの事業になります。そもそも青年部は45歳以下の方で形成されています。次期社長になる方や、元々若いうちから一人で個人事業されている方も最近増えてきています。和光の事業者で構成された方々なので主体性がある方々です。

杉崎会長

先ほどの鈴木さんご紹介してくださったものは学校が企画したものでしょうか。

鈴木委員

家庭科を兼任されている先生から通年の授業として、小学校6年生の総合という授業の中でお

話をいただいたのですが、新倉うどんという商品を使ってもらって、子どもたちが考えたメニューをお店で提供するのはどうかという提案をしました。その結果、やってみたいとのことでしたので2学期の終わりに実施する予定です。

富澤委員

和光ブランドの中の新倉うどんですか。ほかにどちらの企業が参加されているのでしょうか。

鈴木委員

そうですね。ワッカのパパピニョルさんや、去年はレーマンさんに、子どもたちが自分たちでお店に調べに行って、お店をPRしようというようなもので、広沢小学校のホームページに掲載されています。

杉崎会長

子どもたちが提案して、それが実際に採用されるところが、社会参加の一つというような、ただ体験することを超えて実施しているところがすごく大事なことですよね。

遠山委員

似たような事例では、小学校の6年生が主体的となってわぴあを取材し、紹介動画でPRしていました。わぴあでは、市民がサービスの受益者側ではなく、一緒に関わられるような市民企画イベントを考えていて、その中でも、中学校の生徒会の有志の皆さんが、和光市内でのフォトロゲイニング大会を検討しています。料金やターゲット設定なども、子どもたちを中心に企画を組み立てている事例があります。すでに実施した事例では、小学生と一緒に、西大和団地、市役所、わぴあのエリアの中で、「動物ハンター」という企画を実施していて、街の中にあるイラストや遊具から、子どもたちが動物を探しながら地図を作り、地域の街歩きイベントを企画した事例があります。

杉崎会長

世田谷区やいくつかの自治体で、子どもたちが地域のために提案したことに対して市役所が予算をつけるという取り組みがあります。地域の川を綺麗にする事業や、リサイクル活動など、地域の大人も関わりますが、子どもたちが主体で事業を行います。面白い取組としては審査についても、中学生や高校生がします。

都築委員

小さな社会参加ですね。

遠山委員

やるにはどうしても原資が必要になってきますので、子どもでどうやってもらうかという課題があります。

杉崎会長

お金の集め方から勉強すれば意外と子どもたちには皆優しいかもしれません。

都築委員

子どもの方が知恵があるかもしれないですね。

杉崎会長

子どもは結構厳しい質問をしますよね。子どもの方がむしろしっかりしていることもあると思います。中学生や小学校高学年ぐらいで、そのような機会を作れると良いと思いますし、子どもたちは大人が突破できないようなものも、突破していく力があると思います。

都築委員

私達が子どもを信頼するのも大事かもしれません。

杉崎会長

子どもたちがいるおかげでこういうことがあったというような、そういうエピソードはありますか。

坂井委員

子ども主体で新しくこういうことができたという気づきを出せるようなものは大事だなと考えています。

事務局

わこワークの中学生以上への周知発信はどのようにしているのでしょうか。

坂井委員

わこワークは小・中学校にもお知らせをしました。

杉崎会長

わびあはどういう呼びかけをしていますか。不特定多数の人が来る想定もありますよね。

遠山委員

学校にお話ししに行くときもありますし、わびあ自体も SNS を持っていますので不特定多数に向けて広報を出すことも多いですね。

わびあの利用者でいつも来ている子どもたちがスタッフと仲良くなり、次は花火のイベントをやるよと誘うと、手伝うよと言ってくれて、スタッフとして参加してくれるパターンもあります。

杉崎会長

子どもの町、ミニ・ミュンヘンという一つのイベントを市の事業としてやっているところもあります。子どもたちが社会体験でき、プロジェクトの運営自体に子どもたちが関わるもので、子

どもたちが社会に関わり、何かやりたいことをやらせてあげる、やるチャンスを与えてあげられることもすごく大事なと思います。和光市には子ども関係で活動している方たちがたくさんいますから、もしご興味があれば検索してみてください。

鈴木委員

子どもたちが自分で事業を考えて、その審査を子どもたちがして、運営自体も子どもたちがやることについて、その事業をうまく回すのに、大人はどう関与するのでしょうか。

杉崎会長

地域でサポートする大人チームもありますし、実は必要なタイミングで大人が相談相手を務めて、気軽に話をします。

鈴木委員

子どもたちで回すのにうまくいかないこともあると思います。そのときの大人たちの関与の仕方がすごく難しいと感じていて、子どもたちがやっているけれど、大人たちがきちんとサポートするということが出来ているところがすごいですね。

杉崎会長

まず、子どもたちでできそうなボリュームにするということがあると思います。

やりたいことが沢山あっても半年でできることは限られてしまうので、提案をするまでサポートして、その後は大人が伴走していて、口を挟まないけれども相談相手がいるようなイメージです。市の事業としては、原資を出すことと、伴走支援すること。あとは発信の機会として公共施設にチラシを置くなど周知活動を手伝うというようなことです。大事なのは子どもたちの思いがどうやったら実現していくか。そこがなくなってしまう、大人の思いが全面に出てしまったり、子どもたちの思いと全く異なるものにならないようにするということですね。ただ事務局は大変ですよ。

富澤副会長

自治会でも加入者が減っていて、お祭りで神輿を担ぐ子どもが少なくなっていることが問題になっています。

鈴木委員

加入者がいないということでしょうか。自治会には子どもは親と一緒に入るわけですよ。

富澤副会長

親子で一緒にやらないとなってしまうのです。ですが、なぜだかわからないけれど、あそこでお祭りやっているよといった感じで、自治会以外の子どもたちが自然とお祭りに来ます。

杉崎会長

子どもたちはお祭りだったら比較的来ってくれる。地域のおじいちゃんおばあちゃんと顔見知り

になることはないかもしれないけれど、お祭りはそういうツールになりそうですよね。

今日はキックオフということで、先ほど紹介した事例や、最終的には子どもの社会参加をするときに、子どもが主体的に関わりながら、地域社会に主体的に関わるような機会を作るのが大事だということまでは共有できたと思います。あとはそれに対して何ができそうかは個別のアイディアがあると思いますので、引き続き議論はできるかと思います。

どうもありがとうございました。

その他

事務局

次回の会議は2月を予定しております。議題については令和6年度市民参加事業の事後評価の予定です。

閉会

以上